

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900441		
法人名	社会福祉法人 柏寿会		
事業所名	福光園グループホーム やすらぎの家		
所在地	岩手県一関市真柴字はぬ木立 43-96		
自己評価作成日	平成28年 9月20日	評価結果市町村受理日	平成28年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&Ji_gyosyoCd=0370900441-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・本人とご家族が共に過ごせる時間を多く作るよう配慮しています。ケアプランに関しましては、チェックポイントシートを活用し、本人の現在の状態を把握しそのうえでの課題抽出・プランへの反映の流れを作っています。体調管理については、体調不良のまま夜間帯に繋がず、早い段階で判断・行動(受診等)を行いご家族・職員の負担軽減を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・介護について、チームプレーの考え方を基本にした業務のマニュアルを作成し、質の高いサービスの提供に努力している。また、毎月の会議で、「その月のMVP」を職員同士で報告し、「他の職員の仕事を見る」「自己研鑽」の意識を高める方法としている。年間MVPの職員を発表している。
・介護計画は、具体的に丁寧な作成され、職員全員の達成度の平均値で評価し、次回の介護計画につなげている。
・立ち上がりを支える機器を利用者に合わせて手作りしたり、臥床した状態で時間が分かるよう壁の時計の位置をベッドと同じ高さに設置したり、様々な工夫がなされている。利用者と家族と職員の外出ドライブ、家族が中心に行うホームの窓拭きと、家族の野菜持参で、芋の子汁を作り、利用者・職員との交流等、利用者との関係継続の工夫がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・福光園の理念を基本とし、自分たちで作った独自の理念に基づき日々の実践に生かしています。	福光園の理念を基に職員で話し合い、事業所の理念を作成し、日々の業務で実践している。理念を、玄関に掲示している。また、月1回の職員会議の資料に記載し、黙読している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・法人・地区の行事・運営推進会議・外出等の機会に交流が図られています。	自治会に加入し、運動会や文化祭等地区の行事に参加している。隣家(大家)のお孫さん(小4)が、友達と弟を連れて時々遊びに来ている。外出時には、地区の方から声がけされたり、日常的に交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・日常生活の中で(屋内外)本人と職員の関わり方を見ていただき、特別なことではないことを発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・入居者の方々の意見や要望に於いては、明確なものはずらい中で、一人一人に寄り添う事でその表面化しない部分に焦点を当てる努力をしているところ。・年々ご家族の参加は減っています。	運営推進会議には、委員として、市職員、区長、老人クラブ代表、民生委員、警察官、消防署員、利用者全員、家族全員、職員全員が参加している。委員からの、事故報告への質問に答えたり、市職員から、福祉用具の導入について指導いただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議では、行政からの情報提供を頂いています。また、不明な点については電話にて指導・助言をいただいているところ。・	市からは、運営推進会議で情報や助言を頂いている。担当者とは、電話で相談し意見を頂くなど、協力関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・一人対応になる夜勤帯には防犯上の理由から施錠を行っていますが、それ以外に関しては一般的な家庭と同じ環境を作っています。また、身体拘束禁止については資料を回覧・掲示し意識付けを図っています。	玄関や非常出口等、昼は開錠している(出入り口2箇所センサーを設置)。夜間は防犯上、施錠している。夜間の起き上がりやふらつきで不安な方6名には、床センサーマットを使用している。身体拘束廃止については、今年、外部の研修に派遣している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	・資料の配布・掲示で共通認識を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・資料の配布・掲示で共通認識を図っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約書の説明段階及び改定の都度説明を徹底しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議の場を表現の場とし設けていますし、面会の際にも、屈託のない意見を発せられる雰囲気を作る努力をしています。	運営推進会議に家族が委員として参加しており、意見を聞いている。家族が中心になり、ホームの窓ガラス拭き、奥さんが芋の子汁を作る、また、利用者と職員が車で出かけ、家族は現地で合流し、外食する、というように、家族と交流の場を設け、意見を聞く機会となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・年2回の面接評価の場を設け意見をもらうようにしています。	年2回管理者と職員の面接を行い、意見を聞いている。法人の各事業所から労働者代表として1名ずつ職員が出て、意見交換している。業務に関しての意見・提案は、改善に向けて職員全体で取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・常に上層部への相談・報告を意識し、労働環境の向上を図っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・業務マニュアルを整備し業務の標準化を図っています。毎月会議には「その月のMVP」の項目を設け、「人の仕事を見る」「自己研鑽」を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・両盤ブロックの研修・法人内の研修または親睦会活動を通し、同職種の交流の機会を作り意識向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ケアプラン作成時に於いて「本人の思い」を聞き取り本人の声としてプランに乗せています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所申し込みの段階から、可能な限り現状を聞く時間を作っています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・今まで培ってきた経験・ケアマネとしての情報量を元に「ご家族に寄り添う」姿勢で対応させていただいています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・現場での指導が主となりますが、資料も併せながら進めるところです。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・今期は特にも「自分の家族と過ごす時間」を意識し行事を作っています。(食事会・ボランティア活動等)			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご自宅・美容院・スーパー等の外出支援を行っています。	行きつけの美容院や理容所の利用の継続を支援している。スーパーで、近所の方や店員と話している。利用者と職員が、家族と現地で合流し、外食する外食ドライブ、お墓参り、自宅を見に行く等、関係継続の支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・一人一人の性格を観察し他者との関係構築が円滑にできる様中継ぎ・仲介と、必要に応じた支援を行っています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去準備期間～退去～退去後に於いて、ご本人はもとよりそのご家族に対しても文書等で支援を行いました。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ケアプランに於いて「本人の声」を反映させています。	入浴・排泄等1対1の介助時、言葉や動作で意向を把握することが多い。例えば、入浴介助時に、「8月だ」「お盆だ」「お墓どうなった」「何年も行っていない」という会話から、家族の了解を得て墓参している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・過去の職種が「ヘルパー」であったこともあり、在宅が主であることが基本となっています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・各自の生活スタイルを尊重し、職員相互で情報の共有を図っています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・職員会議に於いて検討会を開催し、基本プランの達成状況(評価)を職員全員で行い、継続項目・新たな項目を組み込んだプラン作りをしています。	月1回の職員会議で、プランの評価をし、更新に合わせて見直しをしている。チェックポイントシートを活用し、アセスメントしている。生活援助計画は、具体的な計画で、達成度は職員個々の達成度を平均したもので評価されている。計画の実践に真剣に取り組んでいることが窺われる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・パソコンへの入力に加え「申し送りノート」を活用し「情報の洩れ」を防いでいます。併せて、職員相互が連携し業務にあたる事が出来ています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・介護保険外のサービスも活用し対応させていただいています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・施設の生活を主とし、必要に応じ世代間交流等を活用し生きがいつくりに取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・医療が必要とするところに着目し詳細な情報提供を行い連携に努めています。	かかりつけ医への定期通院は、家族が行っている。その際、ホームでの生活を記した「情報提供書」を家族に渡し、受診後医師が所見を記入し返していただいている。緊急時は、職員が対応している。協力医、協力歯科医との連携も図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・デジタルのみに捕られることなく、自分の感覚で捉えた情報も活用し、異常の早期発見・早期対応に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入退院いずれも文書・口頭による情報の共有を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所時の契約の段階から、今後の在り方を共有し同法人の特養への入所申し込みも勧めます。重度化した際は、出来る範囲での身体介護を提供しています。	入居時に、重度化した場合は看取りはしないが、事業所ができる範囲で介護をすることを伝え、法人が運営する特養ホームの申し込みを同時に勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・救命講習・職員会議での意識付けを行い、有事の際に的確に行動ができる様訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・災害対策マニュアルを掲示しています。 ・年2回の避難訓練を実施しています。	年2回(1回は消防署立会い)の避難訓練を実施している。災害対策マニュアルを整備し、掲示している。当事業所は、同法人の他事業所から孤立しており、近隣の方2名を協力員としてお願いしている。	夜間に避難訓練を実施し、暗さを体験し、課題と対応を検討されたい。また、近くにある、他法人介護事業所への働きかけを試みていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・入居者と職員の関係について都度指導の形を取っています。	利用者への声かけは、本人の希望で名前、名字それぞれである。声の大きさ(大きな声で動かすことは難しい)を意識している。また、土地特有の言葉を意識している。利用者の拒否の行動には、何か理由があると考え意識しながらかかわっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・選択肢を示し、本人の自己決定を引き出す支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・すべてが本人の意思の尊重ではなく、本人に不利益が生ずる場合に於いては支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・その人の自立性を鑑み、必要な支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立の説明・食材の説明を行い「知って食べる味」を提供しています。調理に関する一連の流れに対しては「自分の事は自分で」(配下膳)・出来る作業を出来る人に・・を行っています。	献立は、日勤者が利用者の希望も取り入れ、翌日と翌々日の分を作成している。調理は、利用者ができる範囲で手伝っている。また、配膳・下膳は、時間はかかるが一人ひとり自分の分を行っている。食事開始時に、献立を説明し、「知って」「食べる」をことを実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・年2回法人栄養士による指導を受け、栄養のバランスに配慮し、水分は1日1500~1800を目標に職員共通意識の上で支援させていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・自立・一部介助・全介助に応じて、誤嚥性肺炎予防・歯周病予防に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・各自の排泄パターンをチェック表に記入しデータ化することで適切な排泄誘導に繋がっています。	各自の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。布パンツ8名、日中はリハビリパンツ1名である。夜間にリハビリパンツを使用し、尿量が多く漏れもあり、2時間おきに起こしていた利用者が、眠りが浅くうとうとしており、職員で話し合い、夜間おむつにしたところ、睡眠が十分取れたことにより、日中活動的になった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・麦ごはん・水分摂取量・活動量に加え、隔日のバナナ・ヨーグルト(ヤクルト)摂取により、下剤不要の自然排便が得られています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・人員の関係があり時間は選べない状況ですが、当日入浴できなかった方に対し、下着交換・清拭・部分浴を行い皮膚の保清に努めています。	週2回入浴できている。衣類は毎日交換している。必要時には、陰洗、足浴を行っている。異性介助については、特に問題はなく、異性を感じさせない配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・睡眠表や目視による状態観察を行い、無理ない日課を支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬事情報を基に説明を行い、配薬の際は本人に分かる言葉で説明を行っています。また、限定薬については「経過観察」を必須とし、結果を次回受診に繋がっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・可能な限り職員が中に入り、レクリエーションや雑談で笑う機会を作っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・年2回程度のドライブ・ご家族との外食会・日用品の買い物・地区行事参加等、出来る範囲での支援を行っています。	年2回程度、事前にトイレや階段等バリアフリーの確認をし、全員でのドライブをしている。地区の行事への参加や、家族との外食ドライブ等、近場、遠路含め、できるだけ外出の機会を多くしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在2名の方が自己管理されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・こちらから情報を提供し、自宅でもできたことも可能であることを伝えています。職員との電話に於いても、要件が済んだ時点で本人に代わって会話をさせていただき支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・建物の特性(木造)が入居者方の暮らしの延長を感じさせていると思われます。	木造の、既存の建物を活用している。廊下には、利用者の塗り絵を飾っている。ホールには、テレビ、ソファや小丸テーブルが配置され、小丸テーブルは、家族や面会者との面談に使用されている。利用者は、ゆったり、笑顔で寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食堂・居室側廊下にソファを置き、話語りの場を設けています。また、部屋の一つにはテーブルと椅子を置き、読書等も出来る環境を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・仏壇を持ち込みされている方もおられ、心配事の解消に努めています。	居室には、ベッド、クローゼット、衣装ケースが備えられている。持ち込みは自由で、仏壇、テレビ、椅子が置かれている。整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・段差傾斜については事前に伝え事故の無いよう配慮しています。		